

## 『中国語』

## 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

## 1 前文

令和8年度の共通テスト『中国語』の追・再試験を含む受験者は867人で、昨年度の874人に比べて7人減少した。「外国語」受験者の約0.19%であり昨年度と同じだった。今後も大学側がより一層中国語を入試に活用することが求められている。引き続き高等学校で中国語を学んだ高校生が進学に活用できる客観的な水準設定が望まれる。

令和8年度共通テストを以下の3点を抛り所に、また、15ページに記載の8項目の観点によって、総合的に検討・評価に当たることとする。

(1) 共通テストは「高等学校教育の成果として身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う」試験であるという観点に立ち、学習指導要領「外国語」の目標を重視する。

その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮すること。

(2) 「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題となっているか」について、以下の教育現場からの「基本的要望」が尊重されているかを重視する。

① 細かすぎる難解な語法を問うことはせず、基本的な文法力を問うこと。

② 長文読解は、高校生になじみやすいテーマを選び、内容が抽象的すぎ、論理的に説明が難しいような出題は避けること。

③ リスニング試験が実施されないことを補うために、また、中国語学習にとって重要な発音の理解度を見るために、ピンインを重視して出題すること。

(3) 令和7年度の問題作成部会の見解を参考とすること。

## 2 内容・範囲

第1問 A～Cは昨年度と同じく発音の基礎を確認する問題であり、Dはピンインで示された文章を使っているが、昨年度のような会話文を読んで、状況や発話者が伝えたい内容を選択する形式ではなく、会話文の後にその会話についての問いかけがあり、問いかけに対する答えを選択する問題となった。ピンイン学習を重視し、リスニング問題を補うだけでなく、会話の内容を的確に捉える思考力を重視する傾向が続いている。また、A、B、Dでは出題数が減り、第1問としては3問分、点数としては12点分減っている。

第1問	A	B	C	D
計6問	声母	韻母	声調	ピンインによる会話
(計24点)	4点(4点×1問)	4点(4点×1問)	8点(4点×2問)	8点(4点×2問)

A 見出し語の下線部の声母(子音)と同じものが選択肢の中に幾つあるかを選ぶ形式である。見出し語は、複数の発音を持つ漢字が含まれており、ピンインの表記、発音の理解を問う問題として良問である。

B 見出し語の下線部の韻母(母音)と同じものが選択肢の中に幾つあるかを選ぶ形式である。

見出し語も選択肢も重要語が用いられている。後鼻音の種類を問う問題であり、出題として適切である。

C 声調の組合せを問う問題。見出し語と同じものの数を問う形式である。発音の基礎を確認する問題として適切な出題であるが、問いかけの表現については工夫の余地がある。

D 会話文をピンインで示しており、ピンイン学習を重視する出題となっている。会話文で用いられている単語には、標準的なものが用いられており、単なる応答ではなく会話の状況を考える必要があり評価できる。一方、発話者の置かれている場面設定の示し方には工夫の余地がある。

問1 日常的な生活の場面が使われており、最後まで正確に読み取ることで、正答に至ることができる。

問2 日常的な場面が使われており、食習慣の違いが会話文のなかに見られるため、文化的な背景についても思い巡らすことができる。

第2問 出題形式にやや変更があり、やや長めの文章の空欄補充問題がなくなり、昨年度の第3問のAの出題形式が第2問で出題されている。第2問全体の配点は昨年度に比べ半減した。

A 適切な語を選択する空欄補充問題であり、基本語彙の意味理解と運用力が求められる。

選択肢はいずれも重要語で、初学者から中上位層までを適切に判別できる構成である。

意味・用法の近い語の使い分けを問う設問であり、文全体の意味理解が必要となる。基礎的でありながら判別力のある良問である。

B 類義語の中から「適当でないもの」を選ばせる形式である。「適当でないもの」を選ぶという設問形式は難度が高くなる。選択肢はいずれも重要語である。

逆接関係を成立させる語の適否を判断する問題である。各選択肢は意味的に近いが、文脈との適合性に差があり、語の用法理解の正確さが問われる良問である。

C 短文中の空欄に入る適語を、八つの選択肢から二つ選択させる形式である。文全体の意味把握と語の文法的性質の理解が不可欠であり、思考力・判断力を測る設問となっている。

問1 文中の因果関係を正確に読み取り、文の流れに最も適切な語を選択する問題である。接続表現や結果表現の理解が求められ、内容理解重視の良問である。

問2 「来不及」「还没」などのアスペクト表現・結果補語的表現を理解しているかが問われる。文法的組み合わせを正しく判断する必要があり、適問である。

第3問 中国語文を日本語訳することを通して、理解力を見取ったり、中国語の作文を通してセンテンスにおける表現力を見取ったりする設問である。昨年度とは、設問形式、設問数が変わり、A、Bで設問数は8題に増えているものの、難しい単語は用いられておらず、学習してきた文法事項や語法を活用し、表現内容をよく考えることで正答に至ることができる問題になっている。

A 示された日本語文に相当するピンインで記された中国語文を選ぶ出題である。

問1 “就是”の假定譲歩の用法や意味を理解しているかを確認する適切な設問である。

問2 部分否定の用法を理解しているかを確認する適切な設問である。

問3 一語一語の対応ではなく、文全体の言いたいことを比較の表現である“不如”から考えさせる設問である。

問4 時間に関する“刚”や“正好”の用法や意味を理解しているかを確認する適切な設問である。

B ピンインで示された中国語文に相当する日本語文を選ぶ出題である。

問1 近接未来の表現である“就要～了”の用法や意味、日常的に用いる表現を理解しているかを確認する適切な設問である。

問2 一語一語の対応ではなく、文全体の言いたいことを比較の表現から考えさせる設問である。

問3 文中で用いられている中国語のいくつかの単語の意味を正確に捉えているかを確認する適切な設問である。

問4 “哪怕”を用いた譲歩の文の構造や、使役の用法を確認する適切な設問である。

第4問 A・Bともに、会話文を中心に、設問文や選択肢を含む複数の言語材料から総合的に判断する融合問題であり、各問が見開きで構成され、読み進めやすいよう配慮されている。

A ペットを飼うことを検討している家族と動物保護センター職員との会話文に基づき、内容理解を問う設問である。身近な話題を扱いながら、飼育に伴う責任や配慮事項について多面的に考えさせる構成となっている。

問1 会話文の内容と一致する選択肢を選ぶ問題である。発話者ごとの立場や発言意図を正確に捉える必要があり、基本的な内容理解力を問う適切な問題である。

問2 費用の差異等の表やグラフを的確に読み取る力が試される適問である。表面的な語句の一致ではなく、選択肢の中国語文の正確な読解が必要とされる。(3)では、片方のグラフのみに触れている選択肢もあり、一考を要する。

問3 ペットと人との関係性に関する発言の趣旨を正確に読み取る力が要される設問で、抽象的な表現を具体的な文脈と結び付けて理解する力が問われ、選択肢の文章もよく練られている適問といえる。

B 各種資料を読み取り、内容理解と実用的な中国語読解力を融合的に測る問題である。実生活に即した場面設定であり、学習成果を適切に測定できる構成となっている。

問1 資料の内容と一致する選択肢を選ぶ問題で、基本的な情報の読み取りを確認する設問である。

問2 複数の情報を照合しながら判断する設問であり、資料全体を把握した上で必要な情報を取捨選択する力が求められる。共通テストの趣旨に沿った良問である。

問3 資料であるフローチャートに示された考え方や注意点を踏まえて判断する設問であり、文章全体を総合的に理解する力が問われている。思考力を測る問題として評価できる。

第5問 二人の登場人物の会話によって構成され、北欧のある国（フィンランド）における公務員という仕事の清廉さについて述べられている長文を読み、設問に答える形式である。昨年よりも文章量は増加し、設問数も1題増えている。中国語の語彙や表現を理解しているかを問うだけでなく、内容や文脈を正確に読み取ったり、複数の情報をもとにして考えたりする問いがあり、良問が多い。

問1 下線部の理由を問う設問でありそれまでの流れを理解するとともに、その後の文章と対応させて読解できるかを問う適問である。

問2 段落のなかの、二つずつ計四つの空欄について、前後の記述から空欄を補充する問題である。文脈からそれぞれの助動詞を選ぶ良問である。

問3 段落のなかの、五か所のそれぞれの空欄に入る接続の言葉の組合せを選ぶ設問である。段落全体の内容を理解した上で、それぞれの言葉の意味を考えて選ぶ必要があり良問である。

問4 空欄前後の文脈を読み、「適当でないもの」を選ばせる形式である。「適当でないもの」を選ぶという設問形式はより正確に文脈を把握する必要があるため難度が高くなる。

問5 空欄に入る適切なものを選択する設問である。“虽然～，但…”といったフレーズの理解を見る面もあるが、話の流れと合致する文を選ぶ面もある。

問6 前後の文章の内容から空欄に入る適切なものを選択する設問である。“一～就…”という構文から前後の文章の意味を判断しつつ、選択肢それぞれの意味を理解する必要があり、中国語の語彙力が求められる。

問7 下線部の内容を問う設問である。段落のなかに説明されていることを選ぶ問題である。読み取る必要のある範囲が比較的広い問題である。

問8 下線部の意味を問う設問である。比喻表現の意味を理解しているかという中国語の語彙力が試される問題であるが、文脈の理解も問われている。

問9 下線部の意味を問う設問である。中国語の文章を正確に理解して訳す力が求められる問題である。

問10 長文の最後の行にある二つの空欄に入るものをそれぞれ選ぶ設問である。語彙力が求められるだけでなく、文章全体の主旨を理解して選択する必要がある、良問である。

問11 本文の内容と一致するものを選ぶ設問である。文章全体の内容を把握していることが求められる。

### 3 分量・程度

#### (1) 分量

第4問は文章と資料・会話を組み合わせた問題であり、複数の情報から読み取り判断する問題である。多くの情報を含む文章を理解し考察する能力を試される。また、今年度の第5問の長文は33字×35行で、文章量が昨年度より10行分増加しているが、第2問の問題数が昨年度より減少しており、全体を通して適切な分量である。

#### (2) 程度

昨年度に続き、第4問の各設問を見開き二頁内に収めており受験者への配慮が認められる。昨年度と比べ、第5問の文章量は増加しており、内容について正確な読解力を要されている。

内容については、重要語を中心に問題文や選択肢が構成されており、難解なレベルのものは多くない。今後も文章量と思考に要する時間のバランスを考えていただきたい。

### 4 表現・形式

全体の出題形式を見ると以下のとおりである。マーク数も昨年度と同等である。

内容	発音・ピンイン	語句	表現力	複合的な資料の読み取り	長文読解
問題番号	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
設問数	6	6	8	16	14
配点	24点	16点	40点	60点	60点

### 5 まとめ（総括的な評価）

令和8年度共通テストは、昨年度同様、設問形式や内容、単語の選択において高校生レベルの出題が多く、思考力、総合的な判断力を問いながらも、高等学校から中国語を学び始めた受験者を意識した出題者の工夫が感じられた。

本試験	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
受験者数	667	625	599	735	781	874	866 (-8)
平均点	167.41	160.34	164.79	162.76	172.08	166.02	145.88 (-20.14)

中国語の受験者数は昨年度よりも減少しているが昨年度と同じく800人を超えており、以前に比べれば高い水準にあると言える。今後も共通テストの科目として有効に活用されることを希望する。中国語母語話者の受験者が多いことが推察され、他の高校初修外国語に比べても平均点が高いことが続いている。

るが、今年度の問題作成は中国語の文法や語彙を理解しているかどうかだけが求められるのではなく、それらを組み合わせたり活用したりする思考力が求められる問題や、設題の趣旨をよく考えなければ正答に至れない問題が多く、例年に比べて20点以上平均点が下がっており、工夫が見られた。内容的にも学習指導要領「外国語」の目標に基づいており、全体としては概ね適切な問題だったと思われる。今後も前文で述べた点について御考慮いただき、高等学校から中国語学習を始めた生徒たちが「是非受験したい」と思う出題をお願いしたい。